内視鏡的経乳頭的胆嚢ドレナージが腹腔鏡下胆嚢摘出術に及ぼす影響に関する研究

１．研究の対象

2023 年 10 月～2030 年 3 月に当院消化器内科で急性胆嚢炎ドレナージ（経皮経肝胆道ドレナージ PTGBD / 内視鏡的経乳頭的胆嚢ドレナージ ETGBD）治療を受けたのち、当院消化器外科で腹腔鏡下胆嚢摘出術を受けられた方。

２．試料・情報の利用目的及び利用方法

急性胆嚢炎の治療は、原則として早期の胆嚢摘出術が推奨されます。しかし、重症の患者さんや手術のリスクが高い患者さんでは、まず胆嚢の炎症を鎮めるための処置（胆嚢ドレナージ）を行い、全身状態が安定した後に手術（待機的胆嚢摘出術）を行うことがあります。

胆嚢ドレナージには、主にお腹の皮膚から胆嚢に管を留置する「経皮経肝胆嚢ドレナージ（PTGBD）」と、口からの内視鏡を用いて胆嚢に管を留置する「内視鏡的経乳頭的胆嚢ドレナージ（ETGBD）」の 2 つの方法があります。PTGBD は標準的な手技ですが、管が体外に出るため、刺入部の痛みや日常生活における不便さが課題となる場合があります。一方、ETGBD は管が体内に留置されるため、それらの負担を軽減できる可能性がありますが、より高度な技術を要します。

PTGBD の後に待機的胆嚢摘出術を行うことの安全性は十分に報告されていますが、ETGBD 後の手術成績に関する医学的根拠（エビデンス）はまだ多くありません。

そこで本研究では、ETGBD の後に腹腔鏡下胆嚢摘出術を行った患者さんの安全性および手術前後の経過を PTGBD 後の患者さんと比較し、ETGBD 後の手術が安全に実施可能であるかを検証することを目的としています。

３．研究期間

研究機関の長の実施許可日～2030 年 3 月 31 日

４．研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、治療歴、画像検査所見　等

５．提供する試料・情報の取得の方法

電子カルテより情報収集する。

６．試料・情報の利用又は提供を開始する予定日

2025 年 10 月頃

７．研究組織（利用する者の範囲）

医誠会国際総合病院　消化器外科

消化器センター長	窪田健
主任部長	伊藤博士
部長	川本雅彦
副部長	宮前眞人
医長	岡澤裕
医員	松井智啓

９．お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究実施計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

医誠会国際総合病院
住所：大阪府大阪市北区南扇町 4-14
電話：0570-099-166
担当者（研究責任者）：消化器外科 松井智啓